

# あすひさ 明日を拓く

## 協同回収

(香川・三豊市)

### 四国経済

economy

# 障害者雇用へ社員一体

総合リサイクル会社・協同回収(香川県三豊市)のリサイクル選別センターで、小型家電から集積回路(IC)のチップを取り出す作業が続いていた。粉砕しチップを自動でより分ける作業を繰り返し、型家電は、都市鉱山とも呼ば

## 柴田 正規さん



小型家電から希少金属を取り出すリサイクル選別センターで、分類済みの破片を手にする柴田正規さん(香川県三豊市詫間町松崎)

れる。そこから希少金属を探取している。ヨシモト・トレディングカンパニー社長で、グループ会社の協同回収を創業した柴田正規さん(39)は「人が選別した方が的確で早くてきれい」と話す。

高校卒業後、香川県内の冷凍食品加工会社で勤務した。会社を辞め1999年1月に廃品回収業を始めた。父親の廃品回収の仕事を経験した柴田も手伝っていた経験はあるも

メモ 協同回収(柴田加子社長)は資本金1千万円。資源ごみの金属やプラスチックなどの資源回収拠点「Ecoと(え〜こと)ステーション」、不用品を買い取って中古品として販売するリサイクルショップ「エコリッチ」を手がける総合リサイクル会社。創業の精神の一つに「一緒に働いてくれる仲間とその家族には、物心共に豊かで幸せな生活をして欲しい」を掲げる。

の、創業時の資産は会社員時代に5年ローン組んで150万円で買った中古の4トトラック1台だけだった。当初は鉄くずの取引価格が安く、夜にアルバイトをした。収益が上がらず、トラックの燃料代を2カ月滞納する苦労も経験した。次第に取扱量、収入、そして社員が増え

障害がある人もない人も、自分ができる範囲で点数を積み重ねることが可能だ。柴田さんは「面倒見が良く人を育てられる人が、一番評価が高くなる。だから、どんな人にも優しくなれる」と、この制度のメリットを話す。

会社が軌道に乗り始めた2006年7月、「社会にお返ししたい」と「障がい者雇用推進室」を設け、障害者を積極的に採用する姿勢を示した。同時期にオープンした電子部品分解工場で、障害者3人を有期で職業訓練しながら働くトライアル雇用で受け入れ、その後そのまま採用した。

独自の賃金制度を14年まで3年かけて作り、経営計画手帳に示した。例えば、商品知識があり選別が「できる」と3点、それを「教えることができる」と1点増えて4点、さらに「教えた人ができるようになる」と1点追加されて5点となる。「従業員の成長は会社の成長につながる」との考えから、給料の半分が30項目あるこの成長等級によって決まる仕組みだ。

「普通は、会社や工場の場合に合わせて雇用する。でも、総合リサイクル業はハンデの度合いに合わせることもできる。ハンディがある人や高齢者、環境にもやさしくできる」と柴田さんは話す。「これからも地域、社会に喜んでもらえる強い会社を作っていきたい」(高橋孝二)

支援になります。全国の幼稚園・小・中・高校のうち約2万8000校が参加、いまは公民館や大学、地域社会にも、活動の輪は広がっています。子どもたちの輝く笑顔のために、参加してみませんか。

お問い合わせは、電話=03-5148-7255  
HP=<http://www.bellmark.or.jp>  
メール=[toiawase@bellmark.or.jp](mailto:toiawase@bellmark.or.jp)